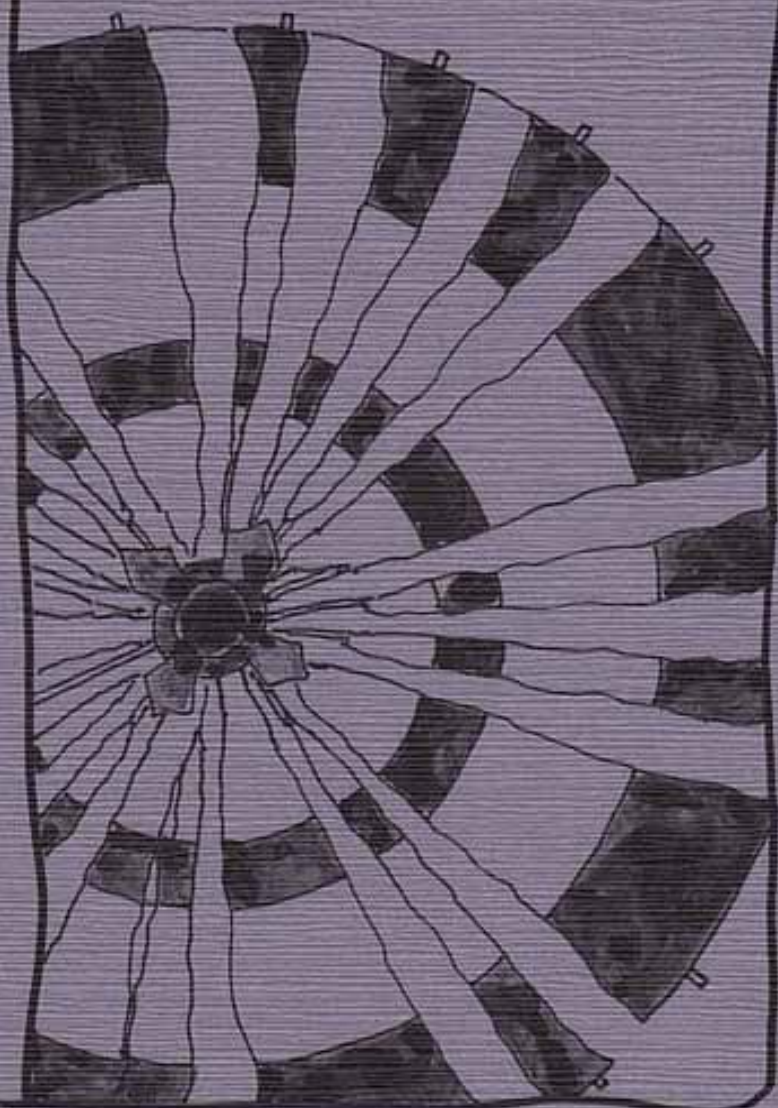


やぶれ傘



一一四号

二〇二〇年六月

給油所がとほくに見ゆる麦の秋	根橋宏次
青梅の転がつてゐていま更地	きくちきみえ
補聴器に風の音くる茄子の花	大島英昭
店番のどこか拭ひてゐる日水	青谷小枝
杉落葉踏み産土を詣でけり	廣瀬雅男
竹垣に絡む鉄線咲きにけり	瀬島酒望
空青き日には蜥蜴がゐるタイル	丑久保 勲
朝の雨うすく紅刷く青りんご	藤井美晴
選句して終へる誕生日や薄暑	小山よる
ピル壁に木の影動く薄暑かな	波邊孝彦
金婚を過ぎジャスマミンの香る窓	安藤久美子
初蝶を畑の境に見失ふ	秋山信行
墓にきて驚くばかり土筆出て	白石正躬
石楠花は百の石段降りてより	天野美登里
芝川の岸の芥子菜たんと摘み	有賀昌子

抄 集 句 傘 紀 大 崎 選

老人がベンチに独り春の昼	松村光典
日の暮れていよいよ白き牡丹かな	箕田健夫
稜線の真白きままに夏に入る	武藤節子
笹鳴を聞く図書館の駐車場	山本久枝
風わたる向かう岸まで蘆の角	湯本正友
ほうたんの花びら軽く花重く	泉 一九
散りぎはの桜眺めに小橋まで	奥田温子
雨上がり春菊の芽の出揃つて	亀岡睦子
クロワッサンの屑払ひをる花曇	倉澤節子
果燕の数を数へて家を出る	坂本和穂
笙の音のひとつきは高き薪能	篠崎志津子
喉にふと不安のありて半夏生	中島和子
庭石に石の色あり春の雨	貫井照子
末黒野の向う筑波山の空あをし	野口希代志
庭に影落としてつるふしじみ蝶	萩原溪人

広瀬 濟

幼子の後ろ手を
して麦を踏む
春屋の舌で
転がす金平糖
棟梁の掛け声
響く遅日かな
落椿の上
にまた落椿
本郷の木造
旅館白木蓮
屋形船で
寮歌をうたふ
夜の桜
ぬばたまの
夜道に薫る
沈丁花

本郷美代子

戸田ケ原の
囲ひの中に
さくら草
囀りの高まり
に猫落ち着かず
黒土の畑に
ゑんどう豆の花
紋白蝶
ひらひら揺れて
風に溶け
母の日に
好みの物でも
てなされ
昨夜の雨
上がりて
木々の若葉
なす
木の蔭に
すずらん
群る旧家
かな

本田 武

散歩よりも
どりてほつと
わらび餅
新しき植木の
鉢に芽吹き
雨
夏めくや「冷やし
中華」と手書き
文字
猫走りなんじや
もんじやの花
白し
マロニエの花
の東京駿河台
クサフジの花
一面に河川敷
桑の実を食つて
餓鬼大将の顔

増田裕司

尼寺の雨に濡れたる
散椿
蹲に添へし
二色の落椿
夜桜に極楽を
みる東寺かな
幼子の頭上を
蝶の飛び交ひて
ハナミズキ
人なき街に
咲きぬたる
春深し籠りて
読書早三月
コロナ禍や
一人で喰らふ
蓬餅

松本善一

枕辺に吸ひ飲み花器にスイートピー
春暁や微かな明かりまなぶたに
臥竜梅幼き文字の古き絵馬
紅白の幕の舞殿豆を撒く
常日頃自粛慣れつこ春日向
エアコンと春雨の音巢籠す
お供への菱餅反りてきたりけり

箕田健夫

水温む小川に集ふ鯉の群
シヤボン玉風に吹かれて荒川へ
日の暮れていよいよ白き牡丹かな
故郷の香りしてゐる柏餅
薔薇咲いて待ち人來たる小庭かな
風薫る岸辺に亀の甲羅干し
ジャスマミンの香りが庭に満ちゐたる

武藤節子

昨日より今日の大きな燕の巢
余寒なほ両手につつむ朝の白湯
ゆらゆらと春が膨らむ雨上り
息足して子へ返しやる紙風船
風来れば向きを揃へて水馬
稜線の真白きままに夏に入る
入口も出口もバラの香をくぐり

村田武

畑中に一本の道花ミモザ
旧川といふ沼に出で竹の秋
白鷺の動き忙しく春闌くる
向う岸の街薄らと夏霞
養蜂の盛んな町の針槐
ニセアカシヤ散りて池面を埋めにけり
持ち帰れば何かと問はるかもし草

用水の橋のたもとに辛夷咲く
 門閉ざす御苑の桜横に見て
 春の雪驚くほどに積りけり
 砂時計眺めてゐたる春の昼
 日溜りの庭木のそばに海老根咲く
 松の芯見様見真似で摘みにけり
 むらさきと白それぞれの立浪草

森美佐子

吊るされてビルの窓拭く花曇り
 笹鳴を聞く図書館の駐車場
 糊のききしナースの白衣夏隣
 初夏の空を横切るヘリコプター
 棕櫚の花見えてこの家普請中
 桑の実の枝を引き寄せつまみ食ひ
 明易し鳩の濁りしこゑ近し

山本久枝

春疾風水撒けば即砂ぼこり
 水温む沼の日向に休む鳥
 風わたる向かう岸まで蘆の角
 都へのお辻の丁石鼓草
 小流れの堤のなぞへ土筆生ふ
 蜜柑の花の蕾のあまた枝の先
 紋黄蝶辻の地蔵をかすめけり

湯本正友

孫達と墓の黄砂を流しけり
 花散るや顎にマスキの酔っ払ひ
 土手道は江戸の外濠ホトケノザ
 犬ふぐり橋を渡れば東京都
 レストラんで弁当を買ふ薄暑かな
 初蝶が校庭をゆくひらひらと
 横見して遊歩道来る夏帽子

湯本実

春菊の白和へと酒さき盆ひんにのせ
 砥部焼きの鉢ひんに咲く春蘭の花
 薬屋のブリキ看板燕つばきの巢
 山椒の芽指めさしに香りを残しけり
 藤の昼時をゆるめて歩をゆるめ
 休校のフェンスに絡む蔦若葉
 風知草そよりそよりとゆるる朝

吉田幸恵

踏み石を黒く残して春の雪
 春北風絵馬からからと鳴り止まず
 菜の花の向かうに海のきらめける
 春雨や紅茶に落とすブランデー
 遠くから会釈えいせきする人紫木蓮
 燕の巢くさ駅舎えきやに古き時計台
 キュッキュツと鳴き砂の音夏きたる

浅嶋肇

釣り堀に親子三代坐しゐたる
 鮎あゆの宿話の種は鮎あゆのこと
 翡翠は枝の先より飛び立つて
 水馬直線みづうま得意とくい円不えんふ得手とくしゅ
 母の日のお百度参り娘とす
 新茶来る友の元気の知らせなり
 暗闇をあちみこちみの蛭狩り

安齋正蔵

野遊びに走り疲れて鼓草
 水温む釣り人糸を垂れしまま
 裏山の桜うらやまの桜さくら俄にわかに散る日かな
 いまもなほ廢線の跡花あざみ
 縁側で猫のつめ切る春の昼
 春うらら三キ口を超す男の児
 子雀は羽ばたばたと餌をねだり

石塚清文

石原健二

寄り添ひて巢くふ燕や軒の影
競ひ合ふ斑雪のかたち山の畑
かけ抜ける校庭の子ら風光る
菜種梅雨農具見つめて近寄らず
機械にて畦は塗られて光る帯
手足ある蝌蚪の頭は水の上
麦青し空につながらる風つよく

泉 一九

もり蕎麦にそへて山葵のすりおろし
仲見世をとほりすぎゆく春の風
砂利トラの後行く伊那路山萌える
水青き天竜川は雪解川
田螺から小さきあぶくひとつ立つ
ぼうたんの花びら軽く花重く
草原に馬が一头ゐる立夏

稲田延子

荒御輿信号待ちの祭足袋
強東風の甲板にゐる船の旅
薫風に笛の音かすか足止めて
寺跡にボール蹴る子ら柿若葉
湧水の流れ軽やか著莪の道
釣師らの酒宴は目張とか焼いて
押しもどす風に向かつて海猫は飛ぶ

岩藤礼子

土筆呉るる「ご挨拶を」と促され
畑中の桜の古木ふぶきをり
川を隔て東京の花見る今年
桐の花駅のこちらは知らぬ町
エアキャッチボール横切るしやぼん玉
徘徊に近づぐ散歩えごの花
ビル影から機影がヌツと目借時

◇7月・8月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
7月	1日(水)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン3	丑久保 勲
	3日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	3日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山 信行
	7日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン1	大島 英昭
	18日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井 美晴
	25日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬 雅男
	25日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
8月	3日(月)	PM6:00	ぎんなん会	浦和コミセン8	丑久保 勲
	4日(火)	AM9:00	こなから会	あいバル	WEP編集室
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン3	大島 英昭
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン3	秋山 信行
	15日(土)	PM2:00	セニヨリータ句会	WEP俳句教室	藤井 美晴
	16日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	さいたま市・見沼	丑久保 勲
	22日(土)	AM10:00	楽天会	あいバル	廣瀬 雅男
	22日(土)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

[注] ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

スタート時間は今後6時に変更します。

8月16日(日)の吟行。集合は10時。

集合場所はJR京浜東北線北浦和駅・改札口。

吟行地は見沼西縁の葉桜並木。

句会場は浦和コミセン第10集会室。

◎連絡先 秋山 信行 ☎ 048-874-0555 藤井 美晴 ☎ 0422-55-2733
 大島 英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣瀬 雅男 ☎ 048-443-7522 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856